誰かの笑顔が働きがいにつながる

8 働きがいも経済成長も
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう

高野酒店
高野　領翼　さん

「誰かを笑顔にできたら、自分の働きがいにつながると思います」

そう語る高野領翼さん。高野さんは現在もTシャツやCDジャケットのデザインを手掛ける一方で、ご両親と磯部で家業の酒屋、高野商店を営んでいます。

高野さんは17年前にアメリカでデザイナーとしての仕事をスタートし、その後家業の酒屋を継ぐために安中に戻ってきました。

安中に戻った後もしばらくはアメリカと安中で、会社がアメリカから東京に移ったのちは東京と安中でリモートワークを進め、フリーランスとなった現在も東京、安中でリモートを通じて仕事を行っています。

場所は東京と安中、そして仕事は酒屋とデザイナーと複数の場所で複数の仕事をしています。

「酒屋を継ぐことは子どもの頃から決めていました、デザイナー1本でやっていくということは考えたことはなかったです」

安中に戻った当初はいろいろと戸惑うことも多かったそうです。

「まず、今ほどSNSもインターネットも普及していなかったですから、都会にいないと触れられない刺激が少なくなることへの不安とか、昔遊んでいた友達もほとんど地元にいなくて…1人じゃ何もできないなあ…と腐りかけた時もありましたね」

そんな高野さんの転機は、家業であるお酒のTシャツをデザインしたときに訪れます。

「それまでは家業はあくまで仕事、デザインも仕事ですけど好きでやっている、って感じで交わることがなかったんです、でもお酒をデザインしたTシャツをみなさんが喜んで着てくれたりして、そこであたらしい価値に気づきましたね」

そんな多様な働き方を実践している高野さんにSDGs、8の目標、「働きがい」について伺いました。

「自分のデザインしたものが人に喜ばれたり、ダイレクトに反応があることに喜びを感じますね、その意味では、酒屋の仕事もまったく同じで、誰かを笑顔にすることで、その人の生活を豊かにできたら、働きがいがあると思います」と高野さんは笑顔で答えてくれました。

今後、コロナ禍をきっかけとして、都会での密集した生活圏から、地方での豊かな生活や仕事を求める流れも加速すると思われます。

「どんどん来てもらいたいですね、安中の新しいパワーになってくれたらすごく嬉しいです」

高野さんから、今後の安中市への思いも話してもらいました。

「安中は都会との交通の便もいいですから、ぜひ空き家を活用して、若い無名のデザイナーやアーティストにアトリエとして作品づくりをしてもらいたいですね、それを温泉街で展示してもいいし、人生のなかで新しい時間をお互いがもてると思います」

今後、安中市に高野さんのように複数の場所や複数の仕事を自由にこなす人たちが増え、SDGsの「働きがい」につながってほしいと感じました。

1：ライブハウスでのライブペイント　2：高野さんデザインのエコバックとして使える酒袋